

平成 29 年度 県立高等学校における長期欠席（不登校）の状況等

1 概要（表 1・表 2・表 5・表 6 参照）

- 平成 29 年度の県立高等学校における長期欠席生徒数は 1,256 人で、全日制は 589 人、定時制は 667 人。理由別では「病気」が 232 人、「経済的理由」100 人、「不登校」が 538 人、「その他」が 386 人。
- 不登校生徒数は、平成 28 年度と比較して 15 人減少（前年度比 2.7%減）。
（全日制 343 人（前年度比 9 人増）、定時制 195 人（前年度比 24 人減））
（表 1）理由別長期欠席者の状況

		在籍者数(人)	理由別長期欠席者数				計(人)	不登校生徒の割合(%)
			病気(人)	経済的理由(人)	不登校(人)	その他(人)		
H28	全日制	37,229	94	2	334	58	488	0.90
	定時制	1,825	33	65	219	370	687	12.00
	合計	39,054	127	67	553	428	1,175	1.42
H29	全日制	36,524	186	1	343	59	589	0.94
	定時制	1,729	46	99	195	327	667	11.28
	合計	38,253	232	100	538	386	1,256	1.41

- 単位制を除く全日制における不登校生徒数のうち、学年別では 2 年生の 109 人が最多（出現率 1.18%）。定時制においては、不登校生徒のうち、前年度不登校経験のある生徒の構成比は 75.9%。
- 1000 人あたりの不登校生徒数は、14.1 人（前年度比 0.1 人減）。不登校生徒のうち、90 日以上欠席している生徒数は 155 人で、全体の 28.8%（全日制 54 人、定時制 101 人）。

2 不登校の要因と考えられる状況（複数回答：表 4 参照）

- 分類別生徒数は、全定ともに『無気力』の傾向がある（全日制 103 人、定時制 97 人）が最多で、そのうち最も多い区分は、全日制は「学業不振」（33 人）、定時制は「家庭に係る状況」（26 人）。
- 次に多い分類別生徒数は、全定ともに『不安』の傾向がある（全日制 96 人、定時制 39 人）で、そのうち最も多い区分は、全日制は「進路に係る不安」（31 人）、定時制は「家庭に係る状況」（15 人）。

3 不登校児童生徒に対して特に効果のあった学校の措置（複数回答：表 3 参照）

「指導の結果登校する又はできるようになった生徒」に特に効果のあった学校の措置は、全定ともに「登校を促すため、電話をかけたか迎えに行くなどした」（全日制 59.2%、定時制 62.5%）で、次に「保護者の協力を求めて家族関係や家庭生活の改善を図った」（全日制 56.8%、定時制 31.3%）。
（「効果のあった学校の措置」に係る調査については、県独自で調査したもの。）

4 専門的な相談・指導を受けた学校内外の機関等（表 7-1・表 7-2 参照）

- 学校内、学校外で担任以外の専門的な相談・指導を受けている生徒の実人数は、全日制 226 人、定時制 49 人。
- 学校内においては、「スクールカウンセラー、相談員等による専門的な相談を受けた」（全日制 114 人、定時制 19 人）が最多。
- 学校外においては、「病院、診療所」（全日制 67 人、定時制 16 人）が最多。

5 不登校生徒のうち、中途退学・原級留置になった生徒数（表 8 参照）

- 不登校生徒のうち、中途退学した生徒数は、全日制 65 人、定時制 25 人で、計 90 人（不登校生徒数に占める割合：16.7%）。
- 不登校生徒のうち、原級留置した生徒数は、全日制 38 人、定時制 32 人で、計 70 人（不登校生徒数に占める割合：13.0%）。